

名古屋大学オープンキャンパス

社会学への招待

上村 泰裕

(名古屋大学准教授)

社会学を始めるきっかけは？

- ◆ 家族や学校生活のなかで感じる疑問。
- ◆ 新聞や本を読んで気づく社会の謎。
- ◆ 私の場合。

そもそも社会とは？

- ◆ societyの訳語：会社、世間、仲間連中…。
- ◆ 「人間交際」(福澤諭吉)…関係としての社会。
- ◆ 家族／学校／会社／地域／世界
…を関係として捉えなおす。



Charles Wright Mills (1916-1962)

社会学的想像力とは？

「個人の人生と社会の歴史は、両方とも理解するのでなければどちらも理解できない。」

「社会学的想像力を持つと、大きな歴史的状況を、それがさまざまな人々の人生に対して持つ意味から理解できるようになる。」

(ミルズ『社会学的想像力』1959年)

社会学的想像力とは？

- ◆ 身近な出来事を広い文脈と結びつけて考える能力（ミクロからマクロへ）。
- ◆ 広い世界の出来事を身近な問題として考える能力（マクロからミクロへ）。
- ◆ 鳥の目と虫の目で社会のからくりを見抜く。



Wilhelm von Humboldt (1767-1835)

高校と大学の違いは？

「〔高校までの〕学校というものは出来あいで解決済みの知識を学ぶところであるのに対して、大学は、学問をつねにいまだ完全に解決されていない問題として、したがってたえず研究されつつあるものとして扱うところにその特色をもつものである。」

(フンボルト「ベルリン高等学問施設の内的ならびに外的組織の理念」1810年)

高校と大学の違いは？

「したがって、大学の教師と学生の関係は、
〔高校までの〕学校におけるそれとは全く違
う。大学の教師は、学生のためにそこにいる
のではない。教師も学生も、学問のためにそ
こにいるのである。」

(フンボルト「ベルリン高等学問施設の内的ならび
に外的組織の理念」1810年)

勉強と研究の違いは？

- ◆ 勉強とは...既知のことからを学習すること
(地道にやればできる)。
- ◆ 研究とは...未知のことからを発見すること
(自主性と飛躍が必要)。
- ◆ 勉強して(ばかりで)はいけない、研究しよう！

研究力は役に立つ？

- ◆ 研究力 = ひねり × ねばり (瞬発力) × 持久力)

入試で測定できるのはこれだけ！

- ◆ 研究者だけでなく、クリエイティブな仕事をした
い人には必須の能力。研究力は役に立つ！
- ◆ 名古屋大学は大学院大学。ぜひ大学院に進
学して、研究力を磨いてほしい。

何のために研究するのか？

- ◆ 「どうなっているか」…からくりを見抜く。
- ◆ だけでなく、「どうすべきか」を提案したい。
- ◆ 考える人よ来たれ。観察し、分析し、行動し、提案できる人になろう。

名古屋大学の社会学者たち (文学部)

- ◆ 田中重好教授…日本や中国のまちづくりやスマトラ島アチェの地震災害復興のなかに人々の共同性のかたちを探究(都市社会学)。
- ◆ 丹辺宣彦教授…階層社会に拮抗してゆるやかなネットワークを形成しようとする人々の集合行為の可能性に注目(階層論・集団論)。
- ◆ 室井研二准教授…グローバル化する現代社会におけるローカル・コミュニティの価値を過疎地に寄り添って探求(地域社会学)。
- ◆ 上村泰裕准教授…アジアの地域統合と国内の地方分権が進む時代にふさわしい新しい福祉のあり方を提言(福祉社会学)。

名古屋大学の社会学者たち (情報文化学部)

- ◆ 黒田由彦教授…住民組織の日中比較や外国人定住化の国内比較を通じて地域社会における公共性の構造転換を活写(地域社会学)。
- ◆ 丸山康司教授…自然保護や市民出資の風力発電を手がかりに人間と自然の創造的関係に基づく持続可能な社会を構想(環境社会学)。
- ◆ 河村則行准教授…情報化とグローバル化による選択肢増大とリスク変化に直面した個人と社会を捉える理論を構築(現代社会論)。
- ◆ 青木聡子准教授…ドイツや日本で環境問題と向き合う人々を追い社会運動が社会を変える力となるための条件を考察(環境社会学)。

先輩たちの卒業論文から

- ◆ 秘密を介した集団形成の社会学的研究
- ◆ 学生アルバイトの基幹化
- ◆ エジプトにおける学歴インフレと就業問題
- ◆ 大学生の音楽消費と文化資本
- ◆ アニメ聖地巡礼の観光社会学
- ◆ 母子福祉政策の転換と当事者運動
- ◆ 脱原発デモとインターネット
- ◆ 日本で働く高学歴中国人女性のキャリア観
- ◆ 外国人による災害ボランティア
- ◆ 女性研究者におけるジェンダー

先輩たちの卒業論文から


- ◆ 沖縄出身者のアイデンティティ変容
- ◆ オリジナル・ウェディングの社会学
- ◆ 紛争予防におけるNGOの役割
- ◆ 森林と地域社会の再編
- ◆ ロールズ正義論の展開と多文化への問い
- ◆ 男性介護者のネットワーク
- ◆ 新しい葬儀のかたちとグリーンワーク
- ◆ 健康を意識する社会
- ◆ 住宅政策の中の若者
- ◆ 伝統工芸世界におけるジェンダー像

先輩たちの修士論文から

- ◆ 中進国タイにおける女性の出稼ぎと家族関係
- ◆ 慢性病患者にみる「生きづらさ」の連鎖とその対処方法
- ◆ 日本人ムスリマコミュニティの形成とその社会的機能
- ◆ 河川の近代化と水防共同体の変容
- ◆ SARS後遺症者のアイデンティティ再形成と香港社会
- ◆ 環境ローカルガバナンスの再検討
- ◆ 広域避難の社会学：支援の論理と「見えない被災者」
- ◆ 障害者運動における健常者の動員とそのコミットメント
- ◆ 日中国際結婚家庭における再生産戦略
- ◆ 「新しい労働運動」における社会的連帯の可能性

先輩たちの修士論文から

- ◆ 高齢者の社会参加とネットワーク
- ◆ 中国における研修生・技能実習生の送り出しメカニズム
- ◆ 歴史的環境の持続的保全に関する研究
- ◆ エコマネーと社会的戦略
- ◆ バウマン社会理論の批判的検討
- ◆ 食の世界：日本のスローフード運動と食育政策を事例に
- ◆ 国民国家形成とエスニック・ナショナリズム
- ◆ 文明化理論の論理構造
- ◆ セクシュアリティと政治
- ◆ 晩期シュッツにおける生活世界論の展開



名古屋大学オープンキャンパス

社会学への招待

上村 泰裕

(名古屋大学准教授)